第三講　論理構造分析①　「否定」「差異」「類似」

「否定（でない）」について

「否定」とは対立する概念「補集合」を作り出す言葉です。否定の前後には「対義語」または「対立する内容」がくるということを確認しましょう。

この否定は、「傍線部内容説明問題」などを中心にどの設問にもからむ可能性のあるもので、論理的読解の一番の基礎になるものです。正確に分析できるようになって下さい。

「否定」のフレームワーク

① Ａ　ではなく　Ｂ　である。
② Ａ　よりむしろ　Ｂ
③ Ａ　のようで実は　Ｂ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「否定」のルール

Ⅰ、矛盾律　「（AはBであり、かつ、Bでない）ということはない」
（AはBであり、かつ、Bでない）を矛盾という。

Ⅱ、排中律　「AはBであるか、または、Bでないかのどちらかである」

Ⅲ、二重否定取り　「Aでない（でない）→A」

Ⅳ、背理法　「Aを仮定して矛盾が導かれるとき、Aでないと結論してよい」

「差異」のフレームワーク

① A は X であるのに対し、B は Y（Xでない）である。
② A は X であるのとは異なり（とは違って）、B は Y（Xでない）である。
③ A は X であるのとは別に（とは逆に）、B は Y（Xでない）である。

※　二者（AとB）の違いを説明するフレームワーク。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅰ、重要概念対義語

□主観
① 対象を認識する自分の意識。
② 自分だけの感覚や考え。

↔ **□客観**
① 自分の意識と関わりなく存在する対象。
② 誰にとっても同じであること。
③ 第三者の立場や考え。

□主体
自らの意思に基づいて行動し、その作用を他に及ぼすもの。

↔ **□客体（対象）**
主体の認識、行為の対象となるもの。

□普遍
いついかなる時代や場所でも当てはまること。

↔ **□特殊**
① 他のものとは異なること。
② 限られた部分や状況にしか当てはまらないこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**絶対** ①他に比較するものや対立するものがないこと。
②他のものに制約・制限されないこと。

□**相対** ↔ 他との比較や関係において成り立つこと。
（参考）**相対化**　他との比較において客観的に捉えるようになること。
相対主義　唯一絶対のものを認めずそれぞれの固有の在り方を認める考え。

□**抽象** 個々の物事から、それらに共通する性質を抜き出すこと。

□**具体** ↔ ①はっきりとした形や内容を持っていること。
②現実に即していること。

□**捨象** 抽象する際に抜き出される性質以外の部分を切り捨てること。

□**分析** 複雑な事柄、現象を部分や要素に分けて、その内容や性質を明らかにすること。
（参考）**要素論**　要素（＝それ以上簡単なものに分析できないもの）を調べることで全体を理解しようとする考え方のこと。

□**総合** ↔ ばらばらになった個々の要素をまとめあげること。
（参考）**機械論**　物事を精密に組み立てられた機械のように見なす考え方。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**有機**　↔　□**無機**

一つ一つの要素が集まり、相互につながりを持っていて、よくまとまっている様子。

整然とした機械のように、生命が感じられず、温かみのない様子。

□**現象**　↔　□**本質**

ある物事が形となって表れたもの。

個々の現象の背後にあってそれを成り立たせているもの。

□**帰納**　↔　□**演繹**

一つ一つの事例から一般的な法則を抽き出すこと。

一般的な法則から一つ一つの具体的な結論を出すこと。

□**理論**　↔　□**実践**

物事を説明するためのまとまった論や知識。

実際に行動に移すこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Ⅱ、近代的二項対立語

□**精神**　人の心の働きのこと。

↔

□**身体**　人間の物質的な側面のこと。

□**理性**　合理的に物事を判断する心の働き。

↔

□**狂気**　常軌を逸したこと。また、そのような心。

□**文明**　人間が科学技術により生み出した生活習慣や社会的な決まりごとが認められている状態・社会のこと。

↔

□**未開（野蛮）**　まだ文明社会の生活習慣が入り込んでいない状態・社会のこと。

□**意識**　自分が何をしているかまたはしようとしているかに気づいていること。

↔

□**無意識**
①自分の振る舞いに気づいていないこと。
②心の深層にあり、主体の行動に影響を与えるもの。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**自律**　自分で自分を律すること。それだけで成立していること。

□**他律**　↔　他からの命令・強制に従って行動すること。

□**自立**　自分だけの力でやっていくこと。

□**依存**　↔　自分以外のものに頼っていること。

□**自由**　心のままであること。責任を持って何かをすることに障害（束縛、強制）がないこと。

□**拘束（束縛、強制）**　↔　行動の自由を制限し、または停止すること。

□**個人**　一人の人間。

□**社会**　↔　人間が集まって共同生活をする集団。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

□**正常** ↔ □**異常**

正しい状態にあること。普通であること。

普通とは異なっていること。

□**秩序（コスモス）** ↔ □**混沌（カオス）**

整然とまとまっている様子。

物事がバラバラな状態。

□**画一** ↔ □**多様**

整然とまとまっている様子。

物事がバラバラな状態。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「類似」のフレームワーク

① A は X である。
　また（同様に、それと似て）
　B も X である。
② A と B は ともに X である。
③ A と同様に B も（また）X である。
④ A と B は X という点で同じである。

※「類似」のフレームワークとは、何か（A）と何か（B）の共通点について述べる時に使われるフレームワークです。
※「も」という副助詞や、「また」という副詞に注意すると類似は見つけやすくなります。
※類似を使った比喩を「類比」と言います。
※類似は「アナロジー」「類推」という言い方もあります。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

（次ページより問題演習）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission 「差異」と「類似」を攻略せよ！

第三講　論理構造分析①　２０１１年第一問

（本問は、設問を一部省略して掲載しています）

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

河川は人間の経験を豊かにする空間である。人間は、本質的に身体的存在であることによって、空間的経験を積むことができる。このような経験を積む空間を「身体空間」と呼ぼう。河川という空間は、「流れ」を経験できる身体空間である。

河川の体験は、流れる水と水のさまざまな様態の体験である。と同時に、身体的移動のなかでの風景体験である。河川の整備と河川を活かした都市の再構築ということであれば、流れる水の知覚とそこを移動する身体に出現する風景の多様な経験を可能にするような整備が必要だということである。

河川整備の意味は、河川の整備が同時に、河川に沿う道の整備でもあるという点に関わっている。場合によって、道は、水面に近いことも、あるいは水面よりもずいぶんと高くなっていることもある。どちらにしても、ひとは歩道を歩きながら、川を体験し、また川の背景となっている都市の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

風景を体験し、そしてまた、そこを歩く自己の体験を意識する。

　河川の体験とは、河川空間での自己の身体意識である。風景とはじつはそれぞれの身体に出現する空間の表情にほかならないからである。風景の意味はひとそれぞれによって異なっている。河川の空間が豊かな空間であるということは、何かが豊かに造られているから豊かだ、ということではない。とりわけて何もつくられていなくても、たとえば、ただ川に沿って道があり、川辺には草が生えていて、水鳥が遊び、魚が跳ねる、ということであっても、そのような風景の知覚がひとそれぞれに多様な経験を与える。体験の多様性の可能性が空間の豊かさである。

　豊かさの内容が固定化された概念によって捉（とら）えられると、その概念によって空間の再編が行われる。たとえば「親水護岸」は水に親しむという行為を可能にするように再編された空間であるから、空間を豊かにすることであるように思われるが、その空間は「水辺に下りる」「水辺を歩く」というコンセプトを実現する空間にすぎない。そこでひとは、たしかに水辺に下りること、水辺を歩くことはできるが、それ以外のことをする可能性は排除されてしまう。この排除は川という本来自然のものが概念という人工のものによって置換されるということを意味している。それは(ア)本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態と捉える

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「差異」と「類似」を攻略せよ！

ことができる。

たとえば、流れに沿って歩いていくと、河川整備の区間によってそれを整備した事業者の違いによって、景観がちぐはぐになっていることがある。もちろんこれは同じ風景が連続していることがよいということではない。問題なのは、土を中心につくられている上流の景観が下流にいくに従って、大きな石によって組み立てられているような場合である。これは、川の相を無視し、事業主体の概念が流れる川を区分けし、その区分けされた川の断片を概念化した結果である。

川は、流れ来る未知なる過去と流れ去る未知なる未来とを結ぶ現在の風景である。この風景を完全に既知の概念によって管理すること、コントロールすることは、川の本質に逆らうことになる。「河川の空間デザイン」という言い方には、危ういところが感じられるが、それは川のもつ未知なるものを完全に人間の概念的思考によってコントロールしうるもの、すべきものという発想が隠れているからである。

完全にコントロールされた概念空間に対して、河川の空間にもとめられているのは、新しい体験が生まれ、新しい発想が生まれ出るような創造的な空間である。川は見えない空間から流れてきて、再び見えない空間へと流れ去る。だから川は人生に喩（たと）えられる。人生は、概念で完全にコントロー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

ルできるようなものではない。川が完全にコントロールされた存在であるならば、川の風景に出会うひとには、そのコントロールされた概念に出会うだけであろう。そうなると、川は、訪れた人びとそれぞれの創造性とは無縁のものとなってしまう。

　都市空間は、設計から施工、竣（しゅん）工のプロセスで完成する。建造物が空間をセッティングして、そこで人びとの生活と活動が行われる。空間の創造は、その生活と活動の空間の創造である。人びとの活動の起点は建造物の建築の終点であるが、都市計画そのものは竣工の時点が終点である。しかし、河川空間の事情は異なっている。竣工の時点が河川空間の完成時ではない。むしろ河川工事の竣工は、河川の空間が育つ起点となる。イそれは庭園に類似している。樹木の植栽は、庭の完成ではなく、育成の起点だからである。

　だから、河川を活かした都市の再構築というとき、時間意識が必要である。川は長い時間をかけて育つもの、自然の力によって育つものであり、人間はその手助けをすべきものである。自然の力と人間の手助けによって川に個性が生まれる。時間をかけて育てた空間だけが、その川の川らしさ、つまり、個性をもつことができる。

　ウ河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく。その履歴

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
「差異」と「類似」を攻略せよ！

が空間に意味を与えるのである。では、この時間にもとづく意味付与は、概念的コントロールによる意味付与とどこが異なるのだろうか。概念的コントロールによる意味付与は、河川空間の設計者の頭のなかにある空間意味づけであり、河川とはこういうものであるべきだ、という強制力をもつ。そのような概念によってつくられた空間に接するとき、風景は抑圧的なものになってしまう。風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げることを阻害してしまう。

　流れる水が過去から流れてきて、未来へと流れ去るように、河川の空間は、本来、時間を意識させる空間として存在する。つまり川の空間は、独特の空間の履歴をもつ。履歴は概念のコントロールとは違って、一握りの人間の頭脳のなかに存在するものではない。多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む。こうして積み上げられた空間の履歴が、その空間に住み、またそこを訪れるそれぞれのひとが固有の履歴を構築する基盤となる。

　人間はいま眼の前に広がる風景だけを見ているのではない。たとえば、わたしは昔の清流を知っているので、いまの川の水の色を見れば、どれほど空間が貧しくなったかを想像することができる。その人の経験の積み重ね、つまり、そのひとの履歴と空間に蓄積された空間の履歴との交差こそ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

が風景を構築するのである。一人ひとりが自分の履歴をベースに河川空間に赴き、風景を知覚する。だからその風景は人びとに共有される空間の風景であるとともに、そのひと固有の風景でもある。風景こそ自己と世界、自己と他者が出会う場である。空間再編の設計は、ひとにぎりの人びとの概念の押しつけであってはならない。

（桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「本来身体空間であるべきものが概念空間によって置換されている事態」（傍線部ア）とはどういうことか、説明せよ。

㈡「それは庭園に類似している」（傍線部イ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈢「河川の空間は、時間の経過とともに履歴を積み上げていく」（傍線部ウ）とあるが、どういうことか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講

論理構造分析①　講義のまとめ

「否定」のフレームワーク　①

「差異」のフレームワーク　②

「類似」のフレームワーク　③

に注意して、読み、書く。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　論理構造分析①「否定」「差異」「類似」

2011年　第一問　桑子敏雄『風景のなかの環境哲学』

要旨

河川は人間の身体に応じて体験されるものである。その空間が固定化された概念によって再編されることにより、都市空間と同じように既知の概念によって管理されることになる。しかし、それは川の本質に逆らったものである。河川は庭園と同じように、竣工の時点から育成されていく。そして、時間の経過とともに、人びとがそれぞれの履歴を積み上げていくものである。

解説

㈠
個々の身体に応じて多様な体験をもたらす自然空間が、固定化された概念に基づいて体験を画一化する人工空間になるということ。

解答ポイント

① X＝個々の身体に応じて多様な体験をもたらす自然空間
② Y＝固定化された概念に基づいて体験を画一化する人工空間
③ XがYになる（置き換えられる）

㈡
河川も庭園も人工的な工事や植栽の終わりを起点として、自然の力と人間の手助けによって時間をかけて個性的に育つ点で同じだから。

解答ポイント

① 人工的な工事や植栽の終わりを起点として
② 自然の力と人間の手助けによって時間をかけて個性的に育つ
③ 河川も庭園も①②であるという点で同じ

㈢
河川の空間は時間がたつにつれ、共有される自然の営みとともに、人びととの自由な想像力による固有の経験も積み重ねていくということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解答ポイント

① B＝共有される自然の営み
② A＝人びとの自由な想像力による固有の経験
③ BとともにAも積み重ねる
（AとBの順序はどちらでも良い）

解説

㈠ 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を含む一文を分析すると、「それ」という指示語、「身体空間」という筆者特有の用語、「概念空間」という筆者特有の用語がポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず、「それ」であるが、第五段落四文目の「この排除」を指している。そして「この排除」は同段落三文目「それ（＝水辺に下りること、水辺を歩くこと）以外のことをする可能性は排除されてしまう」ことである。

次に、「身体空間」をA、「概念空間」をBと置いて、それぞれの説明を求める。すると、第五段落四文目に③「川という本来自然のもの（＝X）が概念という人工のもの（＝Y）によって置換される」とあることから、①A「身体空間」はX「自然のもの」、②B「概念空間」はY「人工のもの」であることがわかる。そして、②B「概念空間」は先ほど捉えたように、「それ（＝水辺に下りること、水辺を歩くこと）以外のことをする可能性が排除」されたものである。それに対し、①A「身体空間」は第四段落六文目にあるようにX「体験の多様性の可能性」があると考えられる。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「それは」という部分と、「庭園に類似している」という部分の間に飛躍がある。よって、その飛躍を埋める説明を本文中に求める。

まず、「それは」の指示内容であるが、「河川」である。そして、「河川」の説明は第九段落七文目に「河川工事の竣工は、河川の空間が育つ起点となる」とある。

ただし、これだけでは不十分である。「庭園」との類似点を説明する必要がある。その説明は、第九段落九文目に①「樹木の植栽は、庭の完成ではなく、育成の起点だからである」

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

とある。「河川の竣工」も「庭園の樹木の植栽」も「完成ではなく、育成の起点」であるという点で③似ていることがわかる。

あとはどのように育つかである。次の第十段落の内容を踏まえ、両者とも②「時間をかけて」「自然の力」と「人間の手助け」によって「個性的に」育つということを解答に加える。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈢　**傍線部内容説明問題**

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「履歴」という筆者特有の用語がポイントであるとわかる。よって、このポイントを説明する根拠を本文中に求める。

まず、「履歴」と反対である「概念」の説明の中にヒントを求める。すると、第十一段落六文目に「概念的コントロールによる意味付与」は「風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げることを阻害してしまう」とあることから、反対の「履歴」は「風景に接したひとが自由な想像力のもとでそれぞれの個性的な経験を積み、固有の履歴を積み上げる」のだとわかる。

さらに、第十二段落三文目以降にも「履歴」の説明がある。「履歴は概念のコントロールとは違って、一握りの人間の頭脳のなかに存在するものではない。多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む。こうして積み上げられた空間の履歴が、その空間に住み、またそこを訪れるそれぞれのひとが固有の履歴を構築する基盤となる」という「履歴」の説明も捉える。

そして「多くの人びとの経験の蓄積を含み、さらに自然の営みをも含む」とあるように、「履歴」は②A「人びと」の「履歴」と①B「自然の営み」の「履歴」があるとわかる。それを詳しく説明しているのが、第十三段落三文目「その人の経験の積み重ね、つまり、そのひとの履歴（＝A）と空間に蓄積された空間の履歴（＝B）との交差」であり、同段落五文目「その風景は人びとに共有される空間の風景（＝B）であるとともに、そのひと固有の風景（＝A）でもある」である。

以上のように、③「A＝そのひと固有の履歴」と「B＝自然の履歴」の二つがあることを踏まえて、解答を構成するとよい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。